

アセスメントからケアプランへ

アセスメント例A

- レンナ・スミスは場所と時間に見当識障害があり、極めて短期記憶が弱く、混乱して徘徊する。
- 頻回に自分の関節炎について不平を言う。
- 新しい環境に慣れないが、適応力に問題があるので、これは驚くにあたらない。
- 集団生活ができず、集団活動では、わめいたり叫んだりしており、他の入居者の迷惑になっている。

アセスメント例B

- レンナ・スミスさんは、物静かで、ユーモアのセンスのある女性です。
- 関節炎を除けば、健康状態も良く、施設の周りを散歩するのが楽しいようです。
- 混乱するときがありますが、顔なじみの人は分かりますし、昔のことは、よく覚えています。
- 今までのやり方を保ちながら、ゆっくりですが、確実に新しい環境に慣れてきています。同室の人ともうまくやっています。
- スミスさんは、今はマンツーマンで、静かな社交的活動のほうが好ましいようです。

ケアプラン例A

- 問題:入所間もないこともあるが、「自分の家ではない」と言っている
- プラン:施設が新しい家であることを理解してもらう働きかけを続ける:ドアに名札を付ける
- 問題:集団アクティビティに馴染めない
- プラン:合唱のときに部屋の後ろに座らせる、さわがないようにさせる
- 問題:居室が殺風景:家族が本人の持ち物を持ってこなかつたため
- プラン:気持ちが明るくなるように色鮮やかな絵を飾る

ケアプラン例B-1

- ニーズ: グレンダールに入居したばかりなので、まだ自分の生活が作れない。
- 目標: 他の入居者と少し有意義な関係を作れるようにすること
- プラン: 毎週行われる合唱の代わりに、同室者とスミスさんが、友達になれるような入居者一人と午後の散歩に出かける。最初の1ヶ月はスタッフもつきそう。

ケアプラン例B-2

- 目標: 身の回りを馴染んだものにする。
- プラン:
 1. 来週までに、リーダーがスミスさんと娘さんと一緒にどのようにベッドルームをスミスさんらしくできるか話し合う。
 2. スミスさんは言葉より、絵に関心があるので、週末までに、ケアワーカーがスミスさんに部屋のドアにスミスさんの写真を貼ってもらうようにする。
 3. 姉妹が今度来たとき、昔住んでいた家の写真を持ってきてくれるかどうか聞く。

アセスメントとケアプランの事例検討

- この事例の2つのアセスメントの違いは何か
- この事例の2つのケアプランの違いは何か

事例検討：施設入所間もない認知症の人のアセスメントとケアプランの比較から

- ポジティブとネガティブの違い
- ポジティブ：利用者の立場から、強さに着目、個別ケア（自尊心、主体性、社会性、希望）その人全体、気持ち、目標設定型
- ネガティブ：提供者の立場になりがち、障害、病気、できないこと、一部分に着目、ステレオタイプ化（個別的でなくなりがち）、（狭義の）問題解決型
- 全体的視点と部分的視点の違い
- アセスメントとケアプランの関係
 - ケアプランのためのアセスメント、アセスメントのためのアセスメントではない